

授業科目

疫学

担当教員名 遠藤 和男	対象学年	2	対象学科	健栄
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	○

授業の概要

公衆栄養学及びその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。

1年で学んだ公衆衛生学及び3年で学ぶ統計情報処理も、本来その応用である。共通するEBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得する。

授業の目的

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。

学習目標

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. 各種疾病の原因を説明できる。
4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。
5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	疫学とは、疫学の歴史	講義+小テスト	遠藤 和男
2	疾患の自然史と疫学の指標	講義+小テスト	遠藤 和男
3	感染症の疫学1	講義+グループワーク	遠藤 和男
4	感染症の疫学2	グループワーク	遠藤 和男
5	感染症の疫学3	成果発表	遠藤 和男
6	職業病の疫学1	講義+グループワーク	遠藤 和男
7	職業病の疫学2	グループワーク	遠藤 和男
8	職業病の疫学3	成果発表	遠藤 和男
9	公害病の疫学1	講義+グループワーク	遠藤 和男
10	公害病の疫学2	グループワーク	遠藤 和男
11	公害病の疫学3	成果発表	遠藤 和男
12	生活習慣病の疫学1	講義+グループワーク	遠藤 和男
13	生活習慣病の疫学2	グループワーク	遠藤 和男
14	生活習慣病の疫学3	成果発表	遠藤 和男
15	まとめと総合演習(国家試験問題の検討)	講義と演習	遠藤 和男

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮、久道茂、編	南江堂	2015年	2,400円+税	1年生の公衆衛生学で使用した。
	保健統計テキスト改訂版	遠藤和男	考古堂	2010年	2,800円+税	3年次の「保健統計学」でも使用を予定。
参考書						
その他の資料						

評価方法

- 1)ミニテスト：約20%
 - 2)本テスト：約80%
- ・2)の出来によっては、グループ発表の成果を考慮する。

履修上の留意点

- ・ 3回目以降のグループワークは6人×7グループを基本とする。

オフィスアワー・連絡先

後期「公衆衛生学」の授業のない木曜日3、4限
endo@nuhw.ac.jp
授業に関する質問などは、メールアドレスまでご連絡ください。